

迫害者から 宣教者へ

新シリーズ
～福音となったイエス～

2026・3・29
スプリング礼拝

迫害者だったサウロ

• ステファノの死に加担していたサウロ

• 「(ステファノを)都の外に引きずり出して石を投げ始めた。証人たちは、自分の着ている物をサウロという若者の足もとに置いた。」(7:58)

• 「サウロは、ステファノの殺害に賛成していた。」8:1

• エルサレム教会を迫害したサウロ

• 「その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起こり、使徒たちのほかは皆、ユダヤとサマリアの地方に散って行った。…一方、サウロは家から家へと押し入って教会を荒らし、男女を問わず引き出して牢に送っていた。」(8:1, 3)

使徒言行録9章3～22節

ところが、サウロが旅をしてダマスコに近づいたとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。サウロは地に倒れ、「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」と呼びかける声を聞いた。「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。起きて町に入れ。そうすれば、あなたのなすべきことが知らされる。」同行していた人たちは、声は聞こえても、だれの姿も見えないので、ものも言えず立っていた。サウロは地面から起き上がって、目を開けたが、何も見えなかった。人々は彼の手を引いてダマスコに連れて行った。サウロは三日間、目が見えず、食べも飲みもしなかった。

ところで、ダマスコにアナニアという弟子がいた。幻の中で主が、「アナニア」と呼びかけると、アナニアは、「主よ、ここにおります」と言った。すると、主は言われた。「立って、『直線通り』と呼ばれる通りへ行き、ユダの家にいるサウロという名の、タルソス出身の者を訪ねよ。今、彼は祈っている。アナニアという人が入って来て自分の上に手を置き、元どおり目が見えるようにしてくれるのを、幻で見たのだ。」しかし、アナニアは答えた。「主よ、わたしは、その人がエルサレムで、あなたの聖なる者たちに対してどんな悪事を働いたか、大勢の人から聞きました。ここでも、御名を呼び求める人をすべて捕らえるため、祭司長たちから権限を受けています。」

すると、主は言われた。「行け。あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。わたしの名のためにどんなに苦しまなくてはならないかを、わたしは彼に示そう。」そこで、アナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上に手を置いて言った。「兄弟サウル、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また、聖霊で満たされるようにと、わたしをお遣わしになったのです。」すると、たちまち目からうろこのようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。そこで、身を起こして洗礼を受け、食事をして元気を取り戻した。

サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちと一緒にいて、すぐあちこちの会堂で、「この人こそ神の子である」と、イエスのことを宣べ伝えた。これを聞いた人々は皆、非常に驚いて言った。「あれは、エルサレムでこの名を呼び求める者たちを滅ぼしていた男ではないか。また、ここへやって来たのも、彼らを縛り上げ、祭司長たちのところへ連行するためではなかったか。」しかし、サウロはますます力を得て、イエスがメシアであることを論証し、ダマスコに住んでいるユダヤ人をうろたえさせた。

手話劇

「サウロの回心」

更なる迫害を目指して

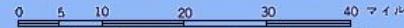
- ダマスコの弟子たちを捕らえようとした
 - 「サウロはなおも主の弟子たちを脅迫し、殺そうと意気込んで、大祭司のところへ行き、ダマスコの諸会堂あての手紙を求めた。それは、この道に従う者を見つけ出したら、男女を問わず縛り上げ、エルサレムに連行するためであった。」(9:1~2)
 - ダマスコはエルサレムから直線で200km以上！
- なぜダマスコにイエスの弟子がいたのか？
 - ステファノの殉教後に起こったエルサレム教会の迫害で散らされた弟子たちが福音を伝えた



ダマスコ

キリスト時代のパレスチナ

Copyright by C. S. HAMMOND & CO., N. Y.



一年中流れる川 首都

季節によって流れる川 道路、通商路

- ルサニヤの四分領
- サロメに与えられた領地
- ピリポの四分領
- デカポリス*
- ヘロデ・アンティパスの四分領
- 独立領域*
- ローマ行政長官の支配領
- ローマのシヤ州(アコ)
- デカポリスの町

*デカポリスとアスカロンは、シヤ州を治めるローマの支配者の下に独立を保った。

ローマ行政長官の居る地

大海 (地中海)

アケラオはヘロデの死によって、ユダヤ、サマリア、イドマヤの支配者になった。彼の治世は、王位を剽奪され、追放されたA.D. 6まで続いた。彼の領土は、その後ローマ行政長官の下に置かれた。

ヘロデの妹サロメは、アゾト、ヤムニヤ、ファサエリスを与えられた。これらは次々に、アウグストゥスの妻リグイアや皇帝テベリオスの手に渡った。

エルサレム



死海文書はこの洞穴で見つかった。エッセネ派修道院廃墟もここにある。

死海 または 死海 (アスファルト湖)

カリロエ、マゲル、ヘロデ・アンティパスの命により斬首された。

イエスの声を聞いたサウロ

- 突然、光に照らされ、倒れたサウロ
 - 「突然、天からの光が彼の周りを照らした。サウロは地に倒れ」
- 呼びかけられたサウロ
 - 『サウル、サウル、なぜ、**わたし**を迫害するのか』
- それはイエスだった！
 - 「主よ、あなたはどなたですか」と言うと
 - 「**わたしは、あなたが迫害しているイエスである。**」
- 目が見えなくなり、手を引かれてダマスコへ
 - 「サウロは地面から起き上がって、目を開けたが、何も見えなかった。人々は彼の手を引いてダマスコに連れて行った。サウロは三日間、目が見えず、食べも飲みもしなかった。」

アナニアに語られるイエス

- 三日間飲まず食わずで祈ったサウロ
 - これまでのことを思い出しながら(ステファノの事)、イエスのことを考え、祈っていた
 - 「アナニアという人が入って来て自分の上に手を置き、元どおり目が見えるようにしてくれるのを、幻で見た」
- アナニアへの命令
 - 「立って、『直線通り』と呼ばれる通りへ行き、ユダの家にいるサウロという名の、タルソス出身の者を訪ねよ。今、彼は祈っている。」
- 命令を拒むアナニア
 - 自分たちをつかまえに来た男の所へ行きたくない！

サウロの回復

- アナニア、サウロの所へ行く
 - 「兄弟サウル、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また、聖霊で満たされるようにと、わたしをお遣わしになったのです。」
- 目が見えるようになり、洗礼を受けるサウロ
 - 「すると、**たちまち目からうろこのようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。**そこで、身を起こして**洗礼を受け…**」
- 目から落ちた「うろこのようなもの」とは
 - **真理を見えなくしていたサウロの思い込み**

迫害者から宣教者へ

- イエスのことを宣べ伝え始めたサウロ
 - 「すぐあちこちの会堂で、『**この人こそ神の子である**』と、イエスのことを宣べ伝えた。」
- 驚いた町の人たち
 - 「あれは、エルサレムでこの名を呼び求める者たちを滅ぼしていた男ではないか。また、ここへやって来たのも、彼らを縛り上げ、祭司長たちのところへ連行するためではなかったか。」
- それでも語り続けたサウロ
 - 「しかし、サウロはますます力を得て、**イエスがメシアであることを論証し**、ダマスコに住んでいるユダヤ人をうろたえさせた。」

迫害者から宣教者へ

- なぜサウロはイエスの弟子たちを迫害したのか
 - イエスは死んだナザレの大工に過ぎず、弟子たちはだまされていると思っていた
 - イエスの教えはユダヤ人を神に背かせ、国を亡ぼすことになると信じていた
- なぜサウロはイエスの宣教者になったのか
 - 生きているイエスに出会ったから**
 - イエスはユダヤ人を罪から救って神に立ち戻らせ、世界に奉仕する者になると信じた
- 実は予め福音宣教のために選ばれていた
 - 「あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。」

迫害者から宣教者へ

- なぜサウロはイエスの弟子たちを迫害したのか
 - イエスは死んだ十ヶ月の木に過ぎず、弟子たちはだ

サウロが復活のイエスに
出会ったから
私たちの所にも
福音が届いた！

- 実は予め福音宣教のために選ばれていた
 - 「あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。」